

# 事業報告

活動名	日本技術士会東北本部岩手県支部令和4年度新春講演会 ～シリーズ岩手を知る（第26回）～ 「地域と共に創る減災を目指して」 ～ 近年の東北地方で多発する土砂災害から学ぶこと ～ (CPD 番号 - )
主催	公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部
日時	令和5年1月28日（土）15:00～16:30
場所	エスポワールいわて（盛岡市中央通1-1-38）
参加人数等	48名（会場40名 WEB配信視聴8名）

## 活動内容

### 1. 講演内容

【講師】 NPO 法人土砂災害防止広報センター 理事  
岩手大学名誉教授・非常勤講師(前岩手大学農学部森林科学科 教授)  
井良沢 道也 氏

NPO 法人土砂災害防止広報センターの井良沢氏を招き「地域と共に創る減災を目指して」と題して講演した。講演に先立って小野寺支部長が挨拶し、今年度の研究会活動が活発だったことに関する謝意を伝えるとともに、盛岡市がニューヨークタイムスの「23年に行くべき52カ所」で歩いて回れる珠玉の町として評価を受けたことに対し、「技術士会の皆さんの活動も貢献しているのではないか」と述べた。

井良沢氏は、近年の東北地方の土砂災害の特徴や、住民の警戒避難の課題、災害を語り継ぐためになど、全国各地の事例をもとにきめ細かく説明。近年の東北地方の土砂災害の特徴を「予兆なき災害」、「新たな天地創造」、「隠された地形」として、現時点での予測が非常に困難であり、東北の巨大地震が作った地形が多く、火山灰、風化花崗岩などで谷の形成が未発達な斜面では、気象条件の影響を受けやすいため留意する必要があると述べられました。また、住民の警戒避難における課題に対して、地域全体での避難行動を高める施策として行政主導の「送迎非難」の検討や、土砂災害の避難訓練など実効性のある非難に向けた取り組みの重要性について述べるとともに、災害を語り継ぐためには学校と行政が連携して多くの土砂災害防災教育の実践がなされ、「学ぶ立場」「ボランティアの立場」「語り部の立場」など様々な立場で関与していくことが必要だと述べられました。

最後に、スマートフォンのライダー機能を斜面防災に活用した事例を述べ、「皆様方にはほかに良いアイデアをお持ちと思います。ぜひ実践&情報共有願います。」と訴えられました。

(文責 工藤将英)



小野寺支部長の挨拶



講師の井良沢氏



会場入り口



受付（感染症対策検温実施）